

平成29年度 徳島県立城東高等学校 学校評価 総括評価表

本年度の重点目標

① 人権教育の充実

ア 人権尊重を柱にすえた教育活動を推進する イ 自他を大切に作る心や態度を育成する ウ 家庭への啓発活動を推進する

② 学習指導の充実

ア 学習意欲を引き出す指導体制・指導方法の工夫・改善を図る イ 主体的に学習に取り組む態度の育成を図る
ウ 多様なニーズに応える教育課程の編成を図る

③ 進路指導の充実

ア 生徒一人一人の勤労観・職業観の育成を図るとともに、夢や目標を明確にさせる
イ 生徒一人一人の学力や適性、興味・関心に応じたきめ細やかな指導を充実させる
ウ 進路実現のために必要な情報を迅速かつ的確に収集し、組織的・計画的な指導を行う

④ 生徒指導の充実

ア 社会の一員としての正しいルール・マナーを習得させ、基本的生活習慣の確立を図る イ 学校の教育活動全体を通じて道徳教育を展開する
ウ 良好な対人関係を構築できる社会性を育み、いじめを未然に防止する態勢を整える
エ 生徒との信頼関係を確立し、家庭との連携を図り、個に応じた生徒指導を展開する

⑤ 特別活動の推進

ア ホームルーム活動・生徒会活動を活性化させ、自主性や実践的な態度を育成する イ 部活動を充実させる
ウ ボランティア活動の機会を取り入れ、豊かな人間性を育てる

⑥ 健康教育の推進

ア 正しい食生活等の健康増進についての指導を行い、心身の調和的発達の促進を図る
イ 学校の教育活動全体を通して、世界の人々の健康と環境問題についての学習を展開する
ウ 一人一人に応じた特別支援教育の推進を図るとともに、教育相談活動の一層の充実を図る

⑦ 環境教育・安全教育の推進

ア 環境問題への意識高揚と環境学習の推進を図る イ 校内外の環境美化活動を推進する ウ 防災教育を推進し、災害時の実践力を育成する

⑧ 読書活動の推進

ア 生徒の望ましい読書習慣の形成を図る イ 生徒の自主的な読書活動を推進する

⑨ グローバル人材の育成

ア 異文化理解学習を深め、国際的視野の涵養を図る イ 国際社会の中で主体的に生きる能力や課題を解決する力の育成を図る

⑩ 開かれた学校づくりの推進

ア 教育活動の積極的な公開を推進する イ ホームページ等を利用した積極的な情報発信を推進する ウ 地域社会、PTA、同窓会との連携を図る

⑪ 教職員の資質向上

ア 校務運営体制の効率化と充実を図る イ 教職員のコンプライアンス意識の高揚を図る ウ 校内外の研修を通じて指導力の向上を図る

1 人権教育の充実

重点目標	評価指標（と活動計画）		評価			次年度への課題と今後の改善方策
	評価指標	人権教育に関するアンケート	評価指標による達成度	評価	総合評価	
①人権尊重を柱にすえた教育活動を推進する ②自他を大切にすする心や態度を育成する ③家庭への啓発活動を推進する	① 人権に配慮した教育活動ができている割合 生徒 85%以上 保護者 85%以上 教員 90%以上				(評定)	
	② 生徒の人権意識の向上度 80%以上 ----- ①-1 「人権週間」の回数 年間4回を設定 ①-2 教職員人権研修会の実施回数 年4回 ② 人権委員会、Know サークルによる啓発資料掲示回数 4回以上 ③-1 「人権教育展」の回数 年3回 ③-2 校誌の人権コーナーを充実					
	活動計画 ①-1 ・年間4回「人権週間」を設定する。 ・ホームルーム活動の活性化を図るため城東人権ゼミを充実させる。 ・人権啓発行事（コンサート・映画・講演会等）を実施する。 ①-2 ・人権意識高揚のための職員研修会を年間2回実施する。 ② ・人権標語の募集、展示をする。 ・特別支援学校との交流をする。 ・校内に人権啓発に関するパネルを固定し、人権委員会や Know サークルの活動として、掲示物の作成に取り組む。 (年間4回以上) ・自主活動の場として、「中・高生による人権交流事業」に積極的に参加する。 ③-1 ・PTA総会・城東祭（文化祭）や「とくしま教育の日」に「人権教育展」をそれぞれ開催する。 ③-2 ・校誌の人権コーナーを充実し、保護者への啓発活動を確実なものとする。	活動計画の実施状況		(所見)		
						学校関係者の意見

2 学習指導の充実

重点目標	評価指標（と活動計画）		評価			次年度への課題と今後の改善方策
	評価指標	授業に関するアンケート（生徒）	評価指標による達成度	評価	総合評価	
① 学習意欲を引き出す指導体制・指導方法の工夫・改善を図る ② 主体的に学習に取り組む態度の育成を図る ③ 多様なニーズに応える教育課程の編成を図る	①	授業の工夫改善度 各教科 80%以上 学習に対する動機付け度 80%以上 学習に対する意欲度 80%以上			(評定)	
	②	予習への取り組み度 50%以上 復習への取り組み度 50%以上				
	③	進路希望にあったコース（教科・科目）の満足度 80%以上				
	①	相互参観授業の回数 各教員年4回 授業公開の回数 2回				
	②	生徒の学習時間（1日あたり） 30分未満の生徒の割合 1%以下 3時間を超える生徒の割合 50%以上 1日あたりの平均学習時間 3時間以上				
	③	教科研究会の開催回数 3回				
	活動計画		活動計画の実施状況		(所見)	
	①	<ul style="list-style-type: none"> 教科研究会を定期的実施し、授業力の向上・指導案の研究をする。 シラバスの改訂を行う。 相互参観授業等で他の教員の授業を参観し授業力の向上を図る。 				学校関係者の意見
	②	<ul style="list-style-type: none"> 第1学年で英語、数学、国語の学習ガイダンスを4月に特設授業の中で実施する。 好ましい学習態度を理解させる。 予習・復習、授業の受け方を指導する。特に予習の大切さと授業との効果的連動については、学期始めやテスト終了後など授業の中で折りに触れ教科担任から指導する。 家庭学習時間調査を毎日実施する。 週末課題、週末テストを実施し、家庭学習の習慣化を徹底する。 学年団による学習指導、生活指導の充実を図る。 基礎学力養成講座、再テストを実施する。 				
	③	<ul style="list-style-type: none"> 学校行事の精選、定期考査の工夫を行い、授業時数を確保する。 教育課程検討委員会において、教育課程やコース制の在り方等を検討する。 				

3 進路指導の充実

重点目標	評価指標（と活動計画）		評価			次年度への課題と 今後の改善方策
	評価指標	進路指導に関するアンケート	評価指標による達成度	評価	総合評価	
①生徒一人一人の勤労観・職業観の育成を図るとともに、夢や目標を明確にさせる ②生徒一人一人の学力や適性、興味・関心に応じたきめ細かな指導を充実させる ③進路実現のために必要な情報を迅速かつ的確に収集し、組織的・計画的な指導を行う	① 総合学習「クエスト」の有用度 80%以上 ② 城東ゼミ（補習）の有用度 70%以上 ③ 進路情報の学校の提供度 80%以上 ①-1 大学見学・企業見学の回数 各1回以上 ①-2 大学等授業体験の実施回数 1回以上 ①-3 職業ガイダンスの回数 1回以上 ①-4 省庁・国際機関での研修回数 各1回以上 ②-1 城東ゼミ（補習）の開設講座数 100講座以上 ②-2 国公立大学合格者数 200名以上 ②-3 難関大学（東京・京都・大阪大学、医学 ・歯学・薬学部など）合格者 40名以上 ②-4 校外模試偏差値70以上 30名以上 偏差値60以上 130名以上 ②-5 SGH・課題研究発表会の回数 2回 ②-6 課題研究コンクール入賞数 2班以上 ②-7 学力テスト講評の配布回数 11回以上 ③ 進路説明会の開催回数 3回（各学年1回以上）				(評定)	
	活動計画	活動計画の実施状況		(所見)	学校関係者の意見	
	①-1 ・東京・京都大学見学を実施する。 ・企業研修を実施する。 ・オープンキャンパスへの参加を推奨する。 ①-2 第2学年での大学等体験授業を実施する。 ①-3 第1学年での職業ガイダンスを実施する。 ①-4 外務省・文科省等での研修を実施する。 ②-1 補習を実施する。毎週38講座（3年生） 38講座（2年生）24講座（1年生） ②-2 進路検討会を第3学年で年4回実施する。 ②-3 難関大対象模試を各学年2回以上実施する。 ②-4 模試分析会を第1，2学年で3回実施する。 ②-5 第2学年で課題研究発表会，第3学年でSGH発表会を実施する。 ②-6 課題研究コンクールへの応募を督促する。 ②-7 学力テストの講評を全学年で延べ11回配布する。 ③ ・進路説明会を実施する。（各学年1回） ・最難関大学進学希望者説明会を実施する。 ・難関大学，医・歯・薬学部進学希望者説明会を実施する。					

4 生徒指導の充実

重点目標	評価指標（と活動計画）		評価			次年度への課題と今後の改善方策
	評価指標	生徒指導についてのアンケート	評価指標による達成度	評価	総合評価	
① 社会の一員としての正しいルール・マナーを習得させ、基本的な生活習慣の確立を図る ② 学校の教育活動全体を通じて道徳教育を展開する ③ 良好な対人関係を構築できる社会性を育み、いじめを未然に防止する態勢を整える ④ 生徒との信頼関係を確立し、家庭との連携を図り、個に応じた生徒指導を展開する	①-1 服装・頭髪が守れている割合 生徒85%以上・教員85%以上 ①-2 あいさつが身につけている割合 生徒85%以上・教員85%以上 ①-3 ルール・マナーを守っている割合 生徒85%以上 ③ いじめを未然に防止するための積極的な取り組み（面接・アンケート 2回） ④ 組織的な生徒指導ができていない割合 教員85%以上・保護者85%以上			総合評価 （評定）	学校関係者の意見	
	①-1 生活委員・部活動生徒による登下校でのあいさつ運動・駐輪場のマナーアップ運動の実施回数 3回 ①-2 交通マナーアップ運動実施回数 1回 ② 道徳教育のHR活動の回数 1回 ③ いじめに関するHR活動の回数 2回 ④ クラス分析会の実施回数 3回					
	活動計画 ①-1 ・各学年での服装・頭髪指導を充実させる。（年3回） ・生活委員・部活動生徒によるあいさつ運動・駐輪場のマナーアップ運動を各学期それぞれ1回実施する。 ①-2 ・遅刻の多い生徒に対し、段階的な指導として担任・生徒課・学年主任・管理職による個別指導を行う。状況に応じて保護者と呼んで指導を行う。 ・交通マナーアップ運動、携帯電話・スマートフォン講演会などを通じて、全校生徒に社会のルールを守ることやマナー指導を行う。 ② 道徳教育に関するHR活動を各学年で実施する。 ③ いじめ防止等対策委員会・クラス分析会を定期的に開催し、生徒の状況等について情報交換を行うとともに、必要な対策等について協議を行う。 ④ 様々な問題を抱えた生徒に対して、学年や部活動顧問及び生徒課等が連携し、多方面から生徒の家庭状況や心身の把握に努め、個々にあった適切な指導を模索し、効果的な指導に努める。	活動計画の実施状況	評価 （所見）			

5 特別活動の推進

重点目標	評価指標（と活動計画）		評価			次年度への課題と今後の改善方策
	評価指標	特別活動についてのアンケート	評価指標による達成度	評価	総合評価	
① ホームルーム活動・生徒会活動を活性化させ、自主性や実践的な態度を育成する ② 部活動を充実させる ③ ボランティア活動の機会を取り入れ、豊かな人間性を育てる	① 生徒会活動が活発である割合 生徒 85%以上 保護者 85%以上 教員 90%以上 ② 部活動の入部率 90%以上 ③-1 募金活動などのボランティア活動に積極的に取り組む割合 75%以上 ③-2 清掃ボランティア満足度 95%以上				(評定)	
	③ 1・2年生全員による清掃ボランティア活動の実施回数 1回以上					
	活動計画	活動計画の実施状況			(所見)	
	① ・生徒会活動や学校行事への積極的参加を促す。 ・朝のあいさつ運動を実施する。 ・委員会活動を充実する。 ② ・部活動と学習面との両立を図る。 ・下校時間を遵守する。 ・部活動を精選する。 ③-1 ・ボランティア活動への積極的参加について、生徒会執行部やJRCとの協力の中で実践する。 ・地域（施設や諸学校など）に根づいたボランティア活動を実践する。（生徒会・Knowサークル・邦楽部・オーケストラ・合唱部・茶道部・華道部・外語部・運動部など） ③-2 ・生徒会や体育部による学校周辺の清掃活動を実施する。 ・1・2年生全員による市内道路等の清掃ボランティア活動を年1回以上実施する。 ・ボランティア活動について、日時や内容などをHPを使って情報提供する。					学校関係者の意見

6 健康教育の推進

重点目標	評価指標（と活動計画）		評価			次年度への課題と今後の改善方策
	評価指標	保健・教育相談のアンケート	評価指標による達成度	評価	総合評価	
①正しい食生活等の健康増進についての指導を行い、心身の調和的発達の促進を図る ②学校の教育活動全体を通して、世界の人々の健康と環境問題についての学習を展開する ③一人一人に応じた特別支援教育の推進を図るとともに、教育相談活動の一層の充実を図る	①	保健室の生徒への応急処置や心の悩み等への対応の良好の割合 80%以上			(評定)	
	②	世界の健康と環境問題についての理解を深める割合 75%以上				
	③	親身になって生徒の悩みや相談に応じてくれる割合 85%以上				
	①-1	「保健だより」の発行回数 12回以上			(所見)	
	①-2	尿検査の提出率 100%				
	①-3	「保健だより」の「食育」コーナーの設置回数 6回以上				
	②	「保健だより」の「Global Health」コーナーの設置回数 10回以上				
	③	職員研修会に対するアンケートの満足度 90%(平均)				
	活動計画	活動計画の実施状況				
	①	<ul style="list-style-type: none"> 保健委員会での生徒の自主的活動を推進する。 文化祭での展示等により、健康増進への啓発を図る。 各教科・各課と連携し、食育啓発を図る。 「保健だより」に「食育」コーナーを設け、興味・関心を深める。 				
	②	<ul style="list-style-type: none"> 各教科・各課と連携し、世界の人々の健康と環境問題解決への啓発を図る。 「保健だより」に「Global Health」コーナーを設け、興味・関心を深める。 				
	③-1	特別支援教育に関する職員研修会を1学期、2学期にそれぞれ1回実施する。				
	③-2	各学年会を利用して、気になる生徒についての情報交換を定期的実施し、心身や生活面、学業などについて悩みや問題を抱えている生徒を早期に発見し、支援を行う。				
	③-3	カウンセラーや専門機関と連携した教育相談活動を充実する。				
						学校関係者の意見

7 環境教育・安全教育の推進

重点目標	評価指標（と活動計画）		評価			次年度への課題と今後の改善方策
	評価指標	環境教育に関するアンケート	評価指標による達成度	評価	総合評価	
① 環境問題への意識高揚と環境学習の推進を図る ② 校内外の環境美化活動を推進する ③ 防災教育を推進し、災害時の実践力を育成する	① 環境美化活動に積極的に取り組んでいる割合 80%以上 ② 清掃活動に熱心に取組み、美しい環境を保つよう心掛けている割合 80%以上				(評定)	
	② 環境委員による清掃奉仕活動（放課後）の実施回数 5回以上 ③-1 避難訓練の実施回数 2回 ③-2 心肺蘇生法の講習会を実施					
	活動計画	活動計画の実施状況			(所見)	
	① ・節電・節水を呼びかける。 ・環境問題に関する記事を掲示する。 ② ・毎日の清掃を徹底する。 ・環境委員による校内や学校周辺の清掃奉仕活動を実施する。 ③-1 防災訓練の実施及び避難経路を確認する。 ③-2 職員・生徒への心肺蘇生法の講習会をそれぞれ1回以上実施する。 ③-3 「防災クラブ」の活動を推進する。					学校関係者の意見

8 読書活動の推進

具体的目標	評価指標（と活動計画）		評価			次年度への課題と今後の改善方策
	評価指標	読書活動についてのアンケート	評価指標による達成度	評価	総合評価	
①生徒の望ましい読書習慣の形成を図る ②生徒の自主的な読書活動を推進する	①-1 読書活動に学校として積極的に取り組んでいる割合 65%以上 ①-2 生徒一人あたりの年間図書貸出数 5.5冊以上 ②-1 読書会，読書週間の実施回数 読書会 2回以上 読書週間 2回以上 ②-2 ツールとして，図書館の資料を活用するスキルを身につけている割合 75%以上			評価 総合評価 (評定)		
	活動計画 ①-1 ・読書週間を1・2学期にそれぞれ1回実施する。 ・学校ホームページに図書館情報を掲載する。 ・「ライブラリーニュース」を毎月発行する。 ①-2 読書会を1・2学期にそれぞれ1回以上実施する。 ②-1 ・図書委員を中心に，読書会・読書週間を利用して読書啓発を行う。 ・生活記録の「読書」欄を利用し，読書への関心・意欲を高める。 ②-2 ・SGHをサポートし，国際的視野を広げる一助となるように関連書籍を「ライブラリーニュース」や展示などで，紹介していく。 ・生徒により興味・関心を持たせるような展示にするよう工夫する。	活動計画の実施状況	(所見)	学校関係者の意見		

9 グローバル人材の育成

重点目標	評価指標（と活動計画）		評価			次年度への課題と今後の改善方策
	評価指標	グローバル人材の育成についてのアンケート	評価指標による達成度	評価	総合評価	
①異文化理解学習を通じて、国際協調の精神の涵養を図る ②国際社会の中で主体的に生きる能力や課題を解決する力の育成を図る	①②	国際交流・国際理解教育に積極的に取り組んでいる割合 生徒 90%以上 保護者 90%以上 教員 90%以上		評価	(評定)	
	①-1 海外研修の活動記録展示回数 2回以上 ①-2 1, 2年生の各クラスで異文化理解学習を実施回数 のべ20回以上 ②-1 国際教育振興弁論大会等の生徒参加人数 20名以上 ②-2 国際教育振興弁論大会等の生徒入賞者数 15名以上 ②-3 国際理解教育に関する諸行事の参加人数 120名以上 ②-4 海外研修・海外留学に参加した(したい)生徒の割合 60%以上 ②-5 社会貢献活動や自己研鑽活動に取り組む生徒数 200名以上 ②-6 S G H発表会・課題研究発表会で英語で発表するグループの数 5組以上					学校関係者の意見
	活動計画		活動計画の実施状況		(所見)	
	①-1 文化祭などでインドネシア研修・姉妹校交流の展示をする。 ①-2 英語の授業を中心にALTや海外留学生との授業を通じて、異文化理解の授業を実施する。 ②-1・2 参加を奨励するとともに、参加生徒にきめ細かな指導をする。 ②-3 ・県や大学・国際交流団体が主催する行事への参加を奨励する。 ・地元大学や国際交流協会等と連携して外国人と交流する機会を増やす。 ②-4 海外研修や海外留学に関する情報を提供し、参加を推奨する。 ②-5 県などが主催する活動への参加を奨励する。 ②-6 各種発表会において英語で発信する機会を増やす。					

10 開かれた学校づくりの推進

重点目標	評価指標（と活動計画）		評価			次年度への課題と今後の改善方策	
	評価指標		評価指標による達成度	評価	総合評価		
①教育活動の積極的な公開を推進する ②ホームページ等を利用しての積極的な情報発信を推進する ③地域社会，P T A，同窓会との連携を図る	① 教育活動の公開が学校の理解に役立っている割合 保護者 90%以上 ② ホームページが学校の情報を得たり，学校の活動を理解するのに役立っている割合 （利用の保護者対象） 85%以上			①-1 授業公開を実施回数 2回 参加者数（合計） 700名以上 ①-2 中学生体験入学の参加者数 中学生 700名以上 保護者・教員 200名以上 ② ホームページの更新回数 120回以上 ③-1 地域住民，P T A及び同窓会関係者を委員とする学校支援協議会の開催回数 2回 ③-2 中学生及びその保護者を対象とした，学校説明会の開催回数 3回		(評定)	
	活動計画		活動計画の実施状況		(所見)	学校関係者の意見	
	①-1 ・休日の授業公開日と授業公開週間（平日4日間）を実施する。 ・中学校，大学，学校評議員，保護者等への広報を充実させる。 ①-2 中学生体験入学の実施については体験授業，体験入部の内容や方法等について，効果的なものになるよう改善する。 ② ホームページを見やすく，使いやすいものになるよう改善に努めるとともに，内容の更新をできるだけ速やかに行う。 ③-1 学校支援協議会を年2回（6月，3月）開催する。 ③-2 学校説明会を休日に複数回実施し，中学生や保護者が参加しやすいようにする。また，中学校への案内や広報の方法を工夫し，参加者を増やす。						

11 教職員の資質向上

重点目標	評価指標（と活動計画）		評価			次年度への課題と今後の改善方策
	評価指標	職員の仕事についてのアンケート	評価指標による達成度	評価	総合評価	
①校務運営体制の効率化と充実を図る ②教職員のコンプライアンス意識の高揚を図る	① 教員の職務の満足度	90%以上			(評定)	
	②-1 常位コンプライアンス意識を持って勤務している割合	100%				
③校内外の研修を通じて指導力の向上を図る	②-2 教育活動に危機管理意識を持って対応できている割合	95%以上				
	②-1 情報セキュリティポリシーについての研修会の実施回数	2回				
	②-2 職員全体でのコンプライアンス研修会の実施回数	3回				
	③-1 校内での研究授業・授業研究会参加人数	50名以上				
	③-2 校内での相互参観授業週間の実施回数	2回以上				
	③-3 校外での授業力向上研修参加人数	5名以上				
	③-4 「育成・評価システム」を全教員対象に実施し、PDCAサイクルの構築					
	活動計画		活動計画の実施状況		(所見)	
	①-1 校内組織の活性化を図るため、学年主任等を中心とした月例主任連絡会をもつ。					
	①-2 校内文書情報の共有化を図り効率的な校務事務処理を構築する。					学校関係者の意見
	②-1 研修会を通して、「情報セキュリティポリシー」を徹底し、確実に実行できるようにする。					
	②-2 外部講師による研修会を実施し、コンプライアンス意識の向上を図る。					
	③-1 計画訪問等も含め、職員研修・研究授業を計画的に配置する。					
	③-2 相互参観授業週間を実施し、生徒の状況把握や授業改善に役立てる。					
	③-3 予備校等の授業力向上研修に参加する。					
	③-4 全教員（非常勤講師を除く）が、「目標管理シート」を効果的に使用し、自らの課題や責務を客観的に捉え、明確化するとともに、次年度への改善に生かせるスキルを身につける。					